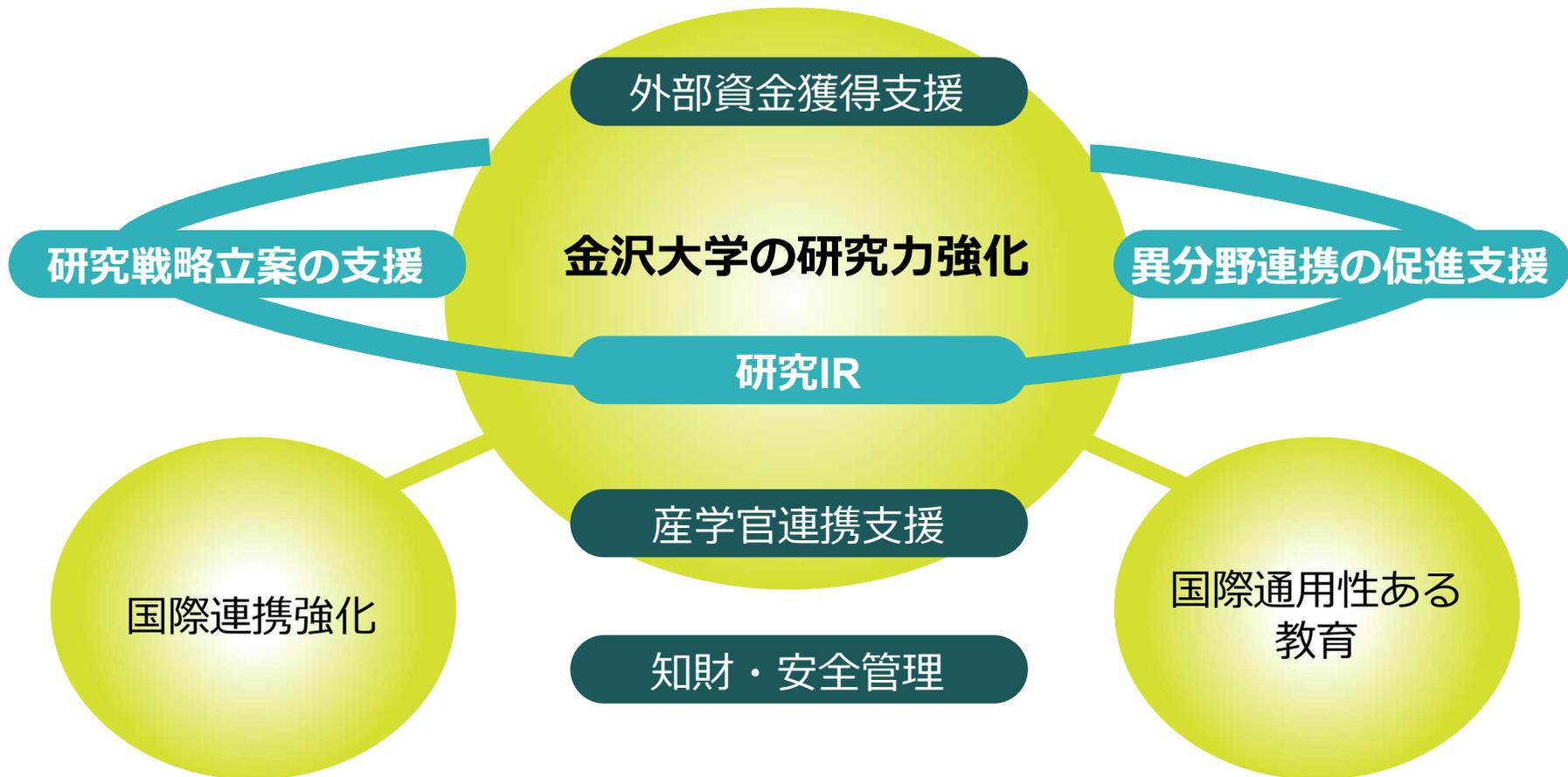


リサーチ・アドミニストレーターを  
育成・確保するシステムの整備

金沢大学 先端科学・イノベーション推進機構

## 大学全体の研究力強化に繋がる企画・実施・支援

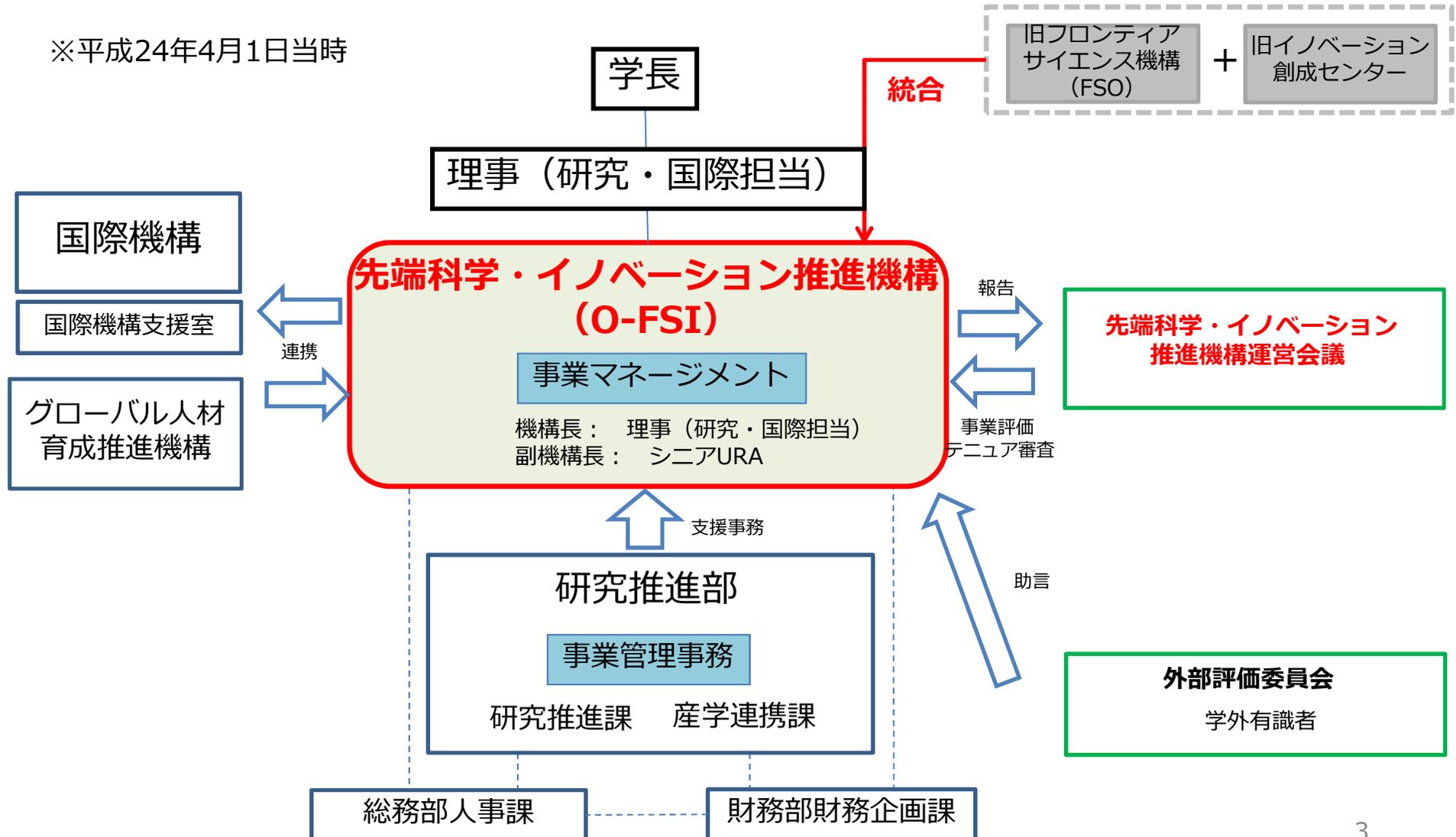


研究，産学連携，国際連携，教育に関わる事項に一体的に関与

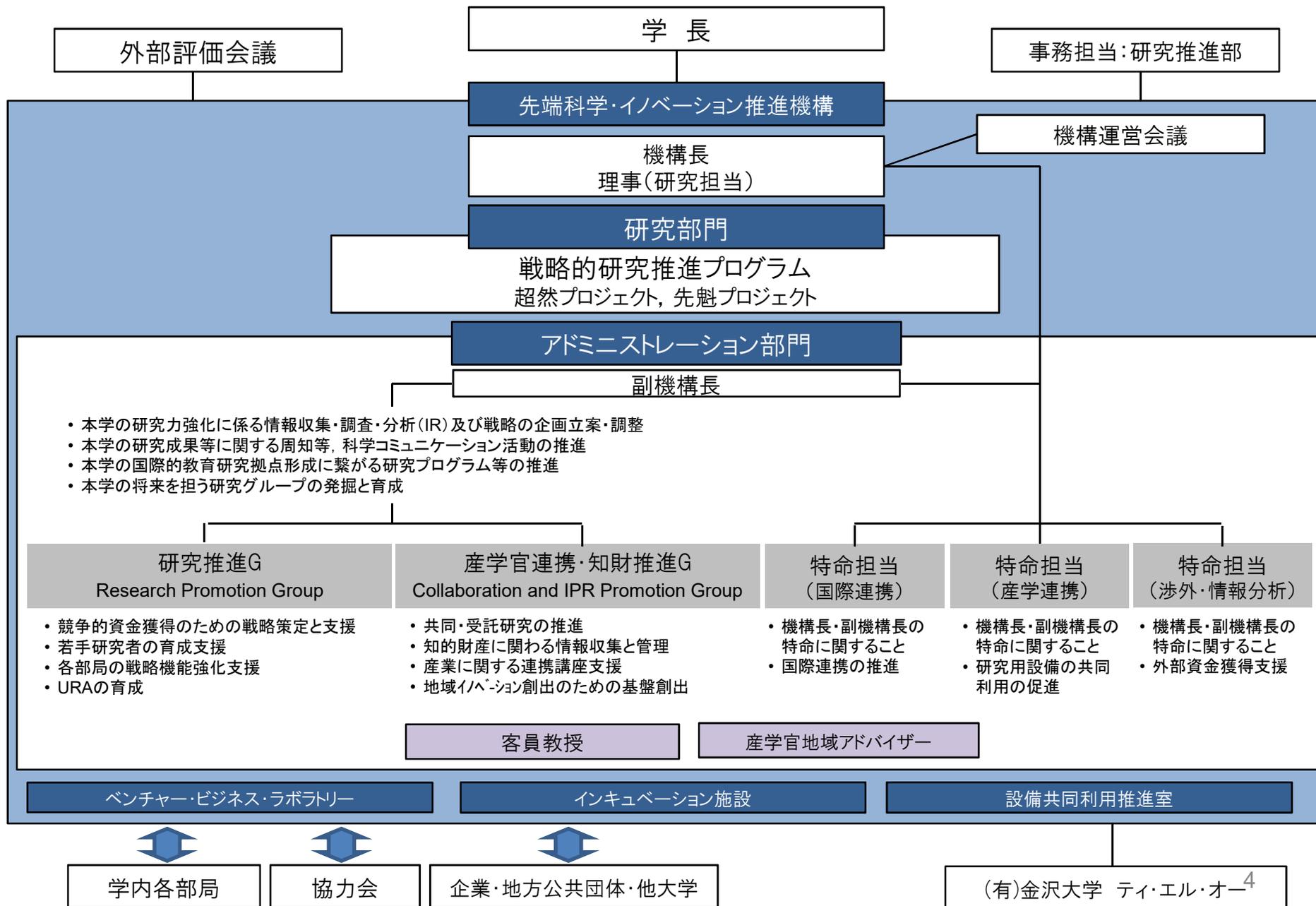
# 研究戦略・推進支援と産学官連携支援を融合した組織

一部局として位置づけられ、人件費を含めて年間約1億円の予算が措置されている。  
また、パーマネントの研究支援専門職教員用ポストも保有している（教授2 + 准教授1 + 助教2 = 合計5）。

※平成24年4月1日当時



# 先端科学・イノベーション推進機構(O-FSI)組織



# アドミニストレーション部門 URAの配置状況

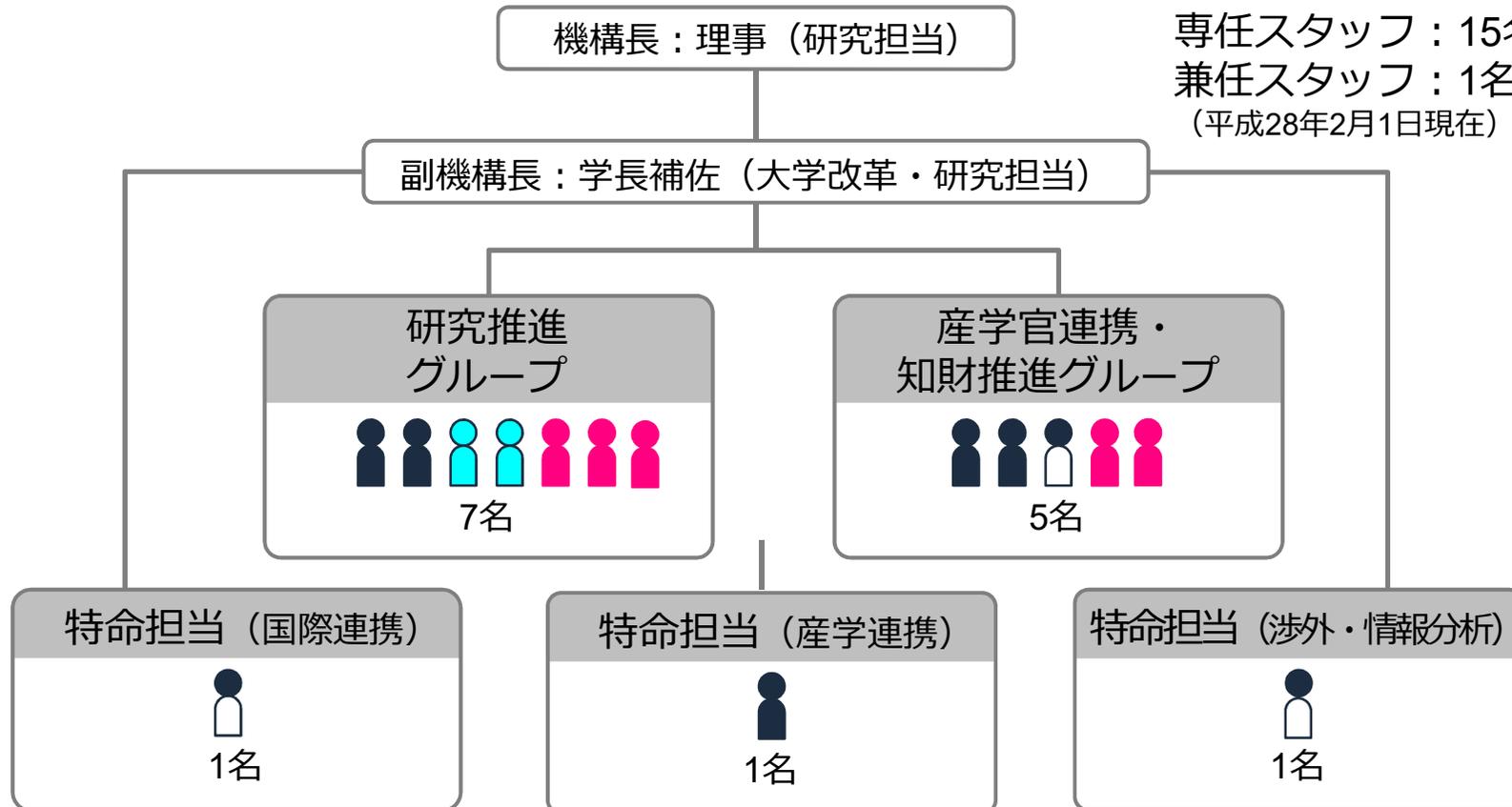
## 先端科学・イノベーション推進機構 (O-FSI)

平成25年4月19名



現在16名

専任スタッフ：15名  
兼任スタッフ：1名  
(平成28年2月1日現在)



## 大学経営（ガバナンス）におけるURA活用例

**URA** 研究を基盤として、教育・国際連携・地域連携等、  
大学の主要機能に関する全学の情報が蓄積



- 学内で全学を俯瞰できる数少ない職種
- データに基づき、企画立案・提案できる人材
- 実際に手足を動かすことのできる人材



**研究マネジメントに加え、大学マネジメントの専門人材として育成**



- 大学改革推進委員会等、大学の方針・戦略決定に関する重要会議に陪席  
大学改革推進委員会：大学改革・機能強化を推進するにあたり、  
学長主導による迅速かつ的確な意思決定を行う委員会
- 機関申請の外部資金申請の企画・立案、申請書作成（SGU等）
- 概算要求の支援

大学の意思決定プロセスに関する情報を把握

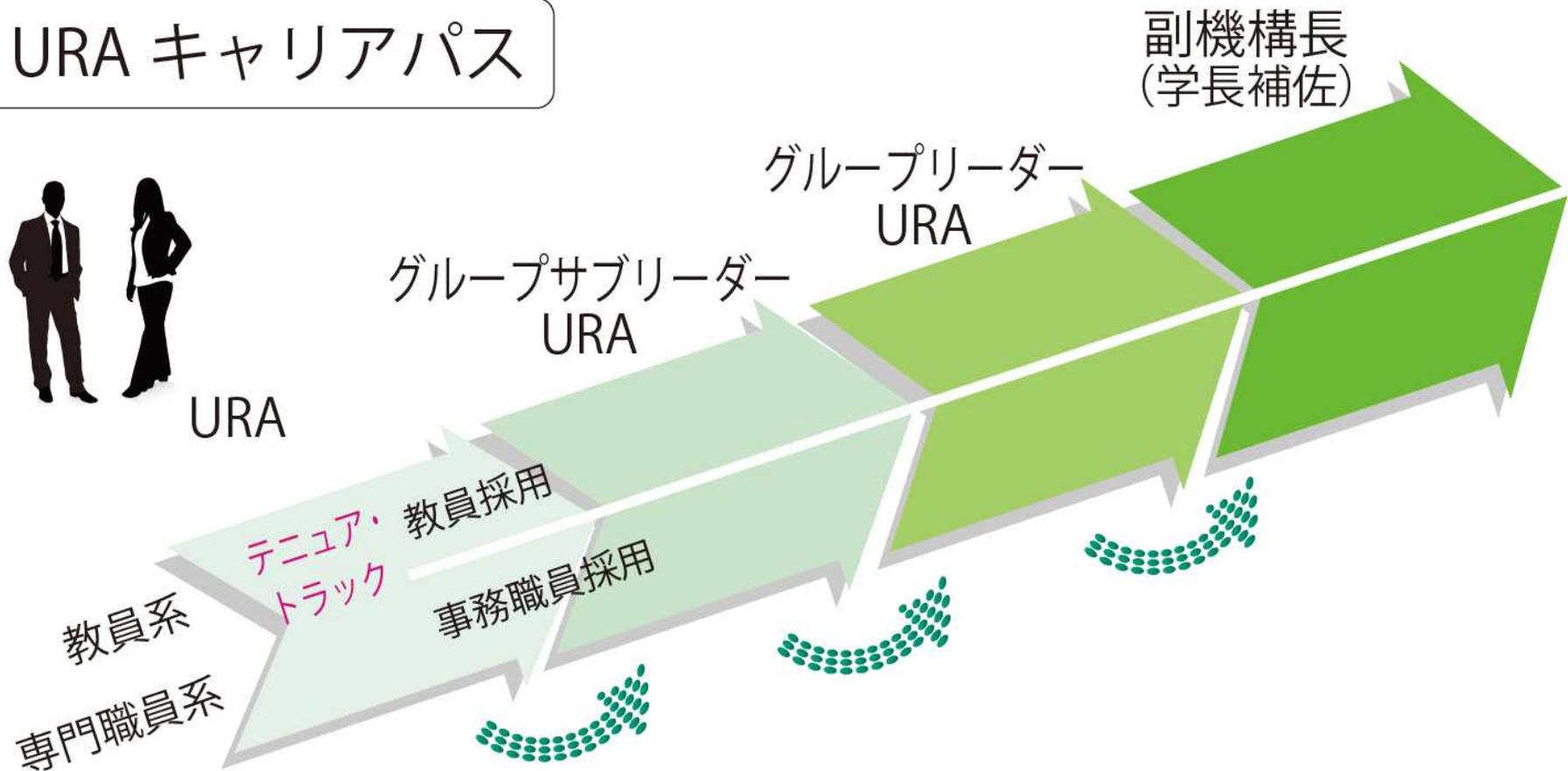
➡ 大学の経営（ガバナンス）方針に基づいた企画立案と支援が可能

# 金沢大学におけるURAの研究支援業務フロー



# URA人事制度についての検討

## URA キャリアパス



### テニユア

教授1名

准教授2名, 助教2名 (3名分は学長裁量ポスト)

事務職員ポストで採用 1名

(その他にテニユア事務職員を1名, URAとして出向させている)

# 金沢大学 URA 学内認定研修の実施

## スタッフ能力開発プログラム 「金沢大学Basics」

- 対象をURAに限定せず、全教職員に門戸を広げた。
- 平成24年度は全23回の講義を実施し、延べ658名が参加し
- レポート提出により、認定証を授与した。



認定証



講義の様子

URA業務 知識/スキル体系	Basics	Advanced	
	Lecture	Lecture (コア・コンピタンス, スキル等)	Workshop (スキルの応用・実用)
<b>企画立案</b> ・ 戦略的研究プロジェクト企画	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学運営指針</li> <li>教育・研究・国際戦略</li> <li>国の学術基本政策</li> <li>研究拠点形成</li> <li>研究戦略立案セミナー</li> </ul>	<b>戦略的思考法</b> 1. 目標設定(国の方向性, 施策の理解) 2. 現状分析および課題抽出(QCから定量・定性分析法) 3. 解決策案出	<b>研究セミナー企画立案および実施</b> 若手教員と協力し、異分野融合研究グループ形成のための研究セミナーを開催。研究背景の近いURAと、異分野のURA各1名が担当
<b>運営</b> ・ 研究計画・進捗マネジメント ・ 資源マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学運営システム</li> <li>大学院と臨床研究</li> <li>地域と大学</li> <li>研究マネジメント</li> <li>財務関係基礎事項</li> </ul>	<b>プロジェクトマネジメント</b> 1. ターゲット設定 2. 業務設計 3. マネジメントサイクル確立 <b>コンフリクトマネジメント</b> 1. コンフリクトの位置付け 2. 解決方法の分類	<b>実際の業務管理</b> Pivotal Tracker, Redmine等ツールソフト利用 <b>コンフリクトマネジメント・ケーススタディ</b> 効果的にコンフリクトを引き起こし、課題の根本的解決に導くためのシミュレーション
<b>研究成果対応</b> ・ 知財活用・事業化戦略 ・ 広報戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域イノベーション</li> <li>ファイブイノベーション</li> <li>ファシリテーション・スキル研修</li> <li>研究マター聞取りWS</li> <li>知財関連基礎事項</li> </ul>	<b>コミュニケーション能力</b> 1. フォーカス・グループ・インタビュー (FGI) 2. イノベーション対話ツール 3. 各研究分野に特有のロジック修得 <b>知財管理・活用</b> 1. METI知財スキル標準「管理」機能分野 2. 同「戦略」機能分野	<b>研究者、企業等を対象とするFGIの実施</b> ニーズ、シーズ情報の把握 <b>イノベーション対話促進WS開催</b> 地域、連携企業との連携、学際的研究グループ形成に向けたワークショップの企画立案および実施
<b>コンプライアンス対応</b> ・ 法令順守 ・ 研究倫理 ・ 社会貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>リスク管理、大学評価</li> </ul>	<b>コンプライアンス</b> 1. コンプライアンス対応の目的 2. ルールの本質理解と率先垂範 3. 社会貢献によるブランディング	<b>コンプライアンス対応ケーススタディ</b> 実際にあったケースにおける対応方法、および組織的取組への展開
<b>人事</b> ・ URA組織マネジメント ・ 後任育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>人事諸制度の基礎</li> </ul>	<b>URA業務の確立</b> 1. URAのコア・コンピタンス把握	<b>URA教育・研修プログラム運営</b> 上記、各プログラムについて、URAが分担し、講師の選定、運営方法、実施体制等の企画立案、および実施を担当
<b>研究推進支援業務</b> ・ 外部資金獲得支援 (Basicsのみ実施)	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究支援業務の概要</li> <li>研究プレゼンWS</li> <li>申請書作成時の注意点</li> </ul>		

H24実施

H25実施

中・上級 研究マネジメント人材の能力向上  
研修・教育プログラムの開発

金沢大&農工大

対象

URA相当の業務経験,  
研究マネジメント経験等を  
10~15年程度有する人材



内容

ケース・スタディに  
よる研修

ベース

- 早稲田大学開発の初級~中級向け研修
- 東京大学開発のスキル標準

科目

1. 研究プロジェクト企画・運営
2. 研究戦略立案
3. 大学マネジメント

3つのケース教材を作成。  
金沢大学, RA研究会,  
UNITTで研修を行った。

→ 現在もウェブサイト  
から入手可

# 業務達成目標の設定・評価

## ○ 4半期ごとの目標設定 ・ ・ ・ 各グループにおける目標設定と達成度の確認

例)

平成24年度目標管理シート				G名: 研究推進グループ										第 一 四 半 期								
研究推進グループの年間業務目標		・ 研究体制強化のための環境を整備 ・ 外部資金申請の相談といえはFSIとすぐに思いつくよう学内周知の徹底を図る(認知度70%を目指す) (研究推進部(旧研究国際部)全体の年度計画を参考に設定。できるだけ数値目標を明記)												進捗状況(四半期ごとに記入・自己点検)								
業務区分	業務項目(何を)	目標値(どれだけ)	具体的な内容(どのように)	年度計画との関係(備考記入)	年間計画												第1四半期の達成状況	第2四半期の達成状況	第3四半期の達成状況	第4四半期の達成状況		
					4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3						
科研費支援	希望者への科研費申請書アドバイス	30-60人(希望者)	科研費申請書にアドバイスを行う	18-5	計画														希望者への申請書アドバイススケジュールを策定した	・8月中旬に研究概要に対するコメントを実施(24件) ・戦略的研究推進プログラム採択者および希望者に対する科研費申請書作成支援(62件の希望に対し57件に返答済み10/16現在)	84件の科研費申請書作成支援を行った。	来年度の申請支援体制の検討を開始した。
	科研費説明会	数回(部局ごと1回ずつ 毎月1回程度)	初心者に向けた科研費申請書の書き方講習を行う	18-5	計画													7月19日、24日に科研費申請入門講座を開催	8/30(見島先生)、9/5(中安先生、村本先生)に外部講師を招いて科研費説明会を実施(学術調整係主催のお手付し) 参加者:110(8/30)、96(9/5)	来年度の新学術領域採択(特に領域代表)に向け、エルゼビア社との共同でコンサルティングプロジェクトを立ち上げ、数名の代表候補者の選出を行った(テーマ2)。また、学内報告会を開催した。 出席者18名		
学内重点研究推進	重点戦略経費による研究推進(課題設定に関する調査、審査委員会支援)	適宜数回	次世代重点研究プログラム審査委員会の開催・審査要綱の策定	18-1 18-3 20-2	計画													次世代重点研究プログラムの審査基準案を作成した	アドバイザーボード委員の選考、依頼作業の開始	アドバイザーボード→外部評価委員会のプログラム策定と各教員への連絡・調整	・外部評価会議を開催した。 ・戦略的研究推進プログラムの紹介パンフを作成した	
	重点戦略経費による研究評価支援(評価委員会開催等)	適宜数回	重点戦略経費研究評価委員会開催	18-1 18-3 20-2	計画													重点戦略経費の各枠組みの採択・評価案作成に協力した	重点戦略経費支援プログラムの広報用原稿作成依頼、HPの作成開始	重点戦略経費支援プログラムの国際広報eNewsletter第一号発行	・外部評価会議を開催した。 ・トムソンの研究について、世界における位置づけ分析の報告会を開催した。	
研究グループ申請外部資金(研究・産学)	機関申請以外の外部研究資金申請支援(文科省、JST、JSPS等)	研究戦略・企画調整Gとあわせて獲得額1.2億円	機関申請以外で、文科省に限らず各省庁の事業採択を目指し、事業の紹介や申請支援を行う。産学官連携外部資金の獲得に力を入れる。	18-1 18-2 18-3	計画													大学発新産業創出拠点プロジェクト(プロジェクト支援型)の案内をVBLの研究室に行ってもらった 戦略的創造研究推進事業(社会技術研究開発)の案内、相談を行った	・JSPS 研究拠点形成事業の申請支援(4件)	機関申請以外の大型申請は特になかった	・CREST-さきがけ申請に向けた各種情報提供を行った。 ・CREST-さきがけ申請のポイント説明会開催のための関係者との調整・準備を行った。	

## ○ 年度末の業務報告会・評価 (個人対象)

## ○ 外部評価 (組織対象)

第1回・平成25年3月18日～19日、第2回・平成26年1月8日～9日及び第3回・平成28年3月10日

# URAのネットワーク形成

本学URAが立ち上げ

## リサーチ・アドミニストレーション研究会

	開催日	場所	主催	参加人数、機関数	内容詳細
第1回	H22/2/5	東京	金沢大	参加人数:48名 機関数:28	WS1:研究推進の部 WS2:産学連携の部
第2回	H22/11/21	東京	金沢大	参加人数:66名 機関数:37	WS1:URA職確立のためには WS2:URAはどう研究推進・産学連携を進めていくか
第3回	H23/12/9	金沢	金沢大	参加人数:94名 機関数:39 (文科省URA事業・H23年度採択5校決定後)	WS1:効果的なスキル向上 WS2:URAにおける産学連携 WS3:URAと大学戦略
第4回	H24/9/4	東京	金沢大・ 農工大	参加人数:203名(登録) 機関数:78(登録) (文科省URA事業・H24年度採択10校決定後)	WS1:研究者ニーズと日本版URAのあるべき姿 WS2:日本版URA人材の育成 WS3:日本版URAの外部ネットワーク形成
第5回	H25/11/18-19	京都	金沢大・ 京都大・ 農工大・ 他	500名超	セッション数 全24(URAシンポジウム含む)
第6回	H26/9/17-18	北海道	RAネットワーク設立準備委員会	500名予定	セッション数 全22(URAシンポジウム含む)



第4回RA研究会

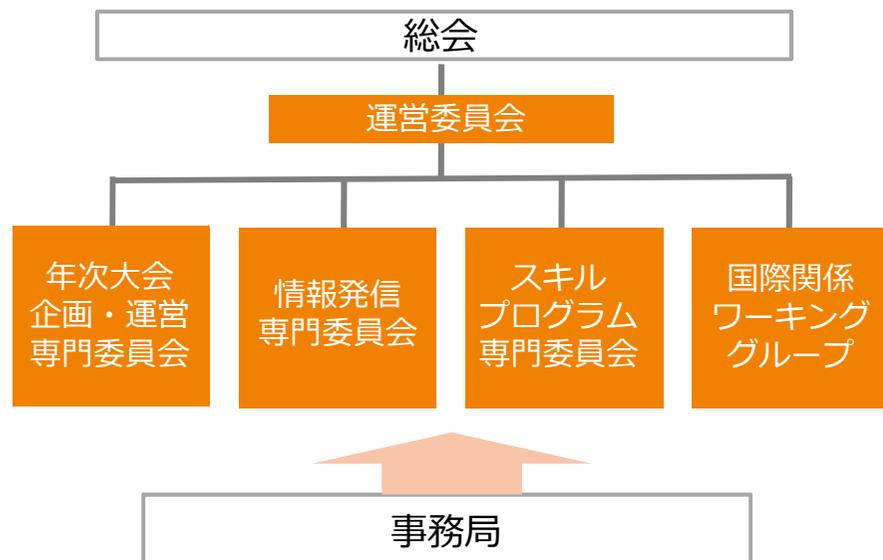
# リサーチ・アドミニストレーター協議会 (RA協議会)

平成27年3月11日 発足

平成29年2月時点

組織会員 **23機関** 全395名  
個人会員 **116名**

## RA協議会 組織構成



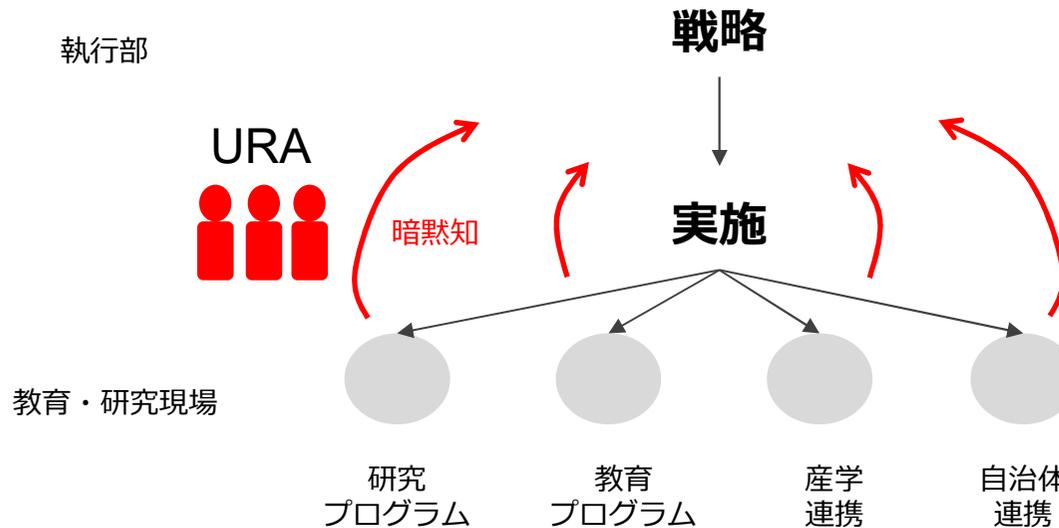
第2回年次大会  
(Aossa福井県民ホール/ 福井大学幹事校)  
2016年9月1日～2日



参加機関**140**, 参加人数**514名**

# URAシステムの整備で得た効果

- 一貫した教育・研究・社会貢献（産学連携）戦略を，外部資金プログラムに反映することができるようになった



- さらに，教育・研究・社会貢献（産学連携）に関する現場の暗黙知を集約できるようになった



一言でいうと

**マネジメントが大学に導入され，実質化した**

+ 「URAといえば金沢大学」 大学のプレゼンスもUP